

蒲生干潟の地形調査⑬

■傾斜がゆるやかになった海岸線

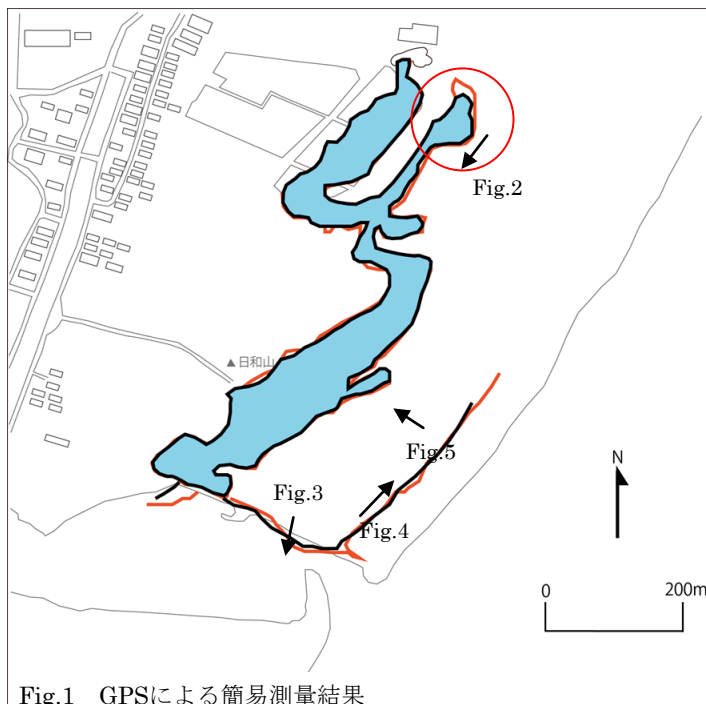


Fig.3 堆積がなくなった右岸 北側より撮影



Fig.4 堆積がなくなり平坦になった海岸線 南側から撮影



Fig.2 水量が減った潟湖北側の様子 北側より撮影



Fig.5 潟湖と海岸の間の砂州にみられた風紋東側から撮影

調査日 2016年11月10日(木) 9:30~11:30 ※満潮時刻12:31(潮位132cm)

潮が満ちていく時間帯にGPSによる簡易測量の調査を行った。Fig.1の黒線で示されたものは11月の汀線、赤線で示されたものは10月のその簡易測量結果である。潟湖の面積は10月と比べて若干縮小していた。図中に○印をつけた潟湖北側は水が著しく少なくなっていた(Fig.2)。

河口付近は、左岸は10月同様に砂が堆積しており護岸ブロックを覆っていた。一方、右岸の堆積がなくなり(Fig.3)河口が広がっていた。また、海岸線の傾斜は緩やかになり(Fig.4)、10月にみられた侵食による崖も無くなっていた。潟湖と海岸の間にある砂州は西からの強い風でできた風紋がみられた(Fig.5)。(中田 晋)